

エッセンシャルオイルのひとしづくが、世界を変えていく

コ・インパクトソーシングの取り組み

ハイチにおけるベチバー生産の場合

2014年2月、純粋で効果が高い、上質のエッセンシャルオイルを求めて、ドテラの経営陣は中米・ハイチに向かいました。首都ポルト・フランスに着き、そこから車で数時間の町レカイに到着を目指します。レカイではパートナー企業やベチバー農家の人々と会い、蒸留工場を見学。この事業が成功の可能性を秘めていること、そして、そのために取り組むべき課題の数々に気づきました。これまで取り組んできたヒーリングハンズ活動に加え、「コ・インパクトソーシング」という方法を取り入れることで、問題解決につながり、多くの人々の人生に変化をもたらすことができると確信したのです。

作物の育たないハイチの過酷な環境は、乾燥に強く少ない栄養で育つベチバーの生育には適していたのです。しかし、ベチバー栽培には多大な労力と根気が必要です。良質なエッセンシャルオイルの原料となるには16~18か月も育てなければならず、また、成長して固い大地にしっかりと根を張ったベチバーは、収穫するのも叩いて根土を落とすのもひと苦勞。収入を早く楽に得たい農家の人々は、しばしば、ベチバーの根が十分に成長する前に、収穫してしまうことがありました。それでは、ドテラが目指すエッセンシャルオイルの品質とはかけ離れたものになってしまいます。

問題は、生産者の知識や組織力が不足していることにありました。農家の人々が組織化されていないため、栽培や収穫についての知識が共有されず、また、正当な利益配分がなされていなかったのです。そこでドテラ社は、生産者の協同組合を設立しました。世帯ごとに任意で加入でき、加入者は品質の高いベチバー栽培の方法について指導が受けられます。また、蒸留工場を経営するパートナー企業に協力を要請、収穫時以外にも栽培時、収穫準備時など定期的に収入を得られるよう、支払い制度を改革にしました。さらに、すべての蒸溜プロセスにおいて生産者を特定把握することができるトレーサビリティシステムを確立。品質の高いベチバーの生産者にはより高い報酬を支払うしくみが可能になりました。

“世界には、「与える人」と「受け取る人」がいますが、ドテラは「与える人」でありたいと思います”

- デビッド・スターリング

カリブ海に浮かぶ島国・ハイチは、世界で最も貧しい国のひとつです。平地が少なく岩山だらけの地形は耕作に適さず、頻りに発生するサイクロンなどの自然災害が追い打ちをかけるのです。なかでも、作物が育たないほど土地の痩せた山麓部に住む人々は収入を得る機会が極端に少なく、貧困に苦しんでいます。多くの人々は、わずか半エーカー（200㎡/0.2ha(ヘクタール)）の農地でベチバーを栽培し、どうにかこうにか暮らしています。ベチバーの収穫期は年に数ヶ月しかなく収穫のない時期の収入はほとんどゼロです。

インド原産のベチバーがハイチに持ち込まれたのは1930年代、香水業界によってでした。ベチバーの根から抽出されるエッセンシャルオイルは、複雑でエキゾチックな香りからよく香水の原料に用いられ、珍重されてきました。



dōTERRA
cō·impact
SOURCING™
コ・インパクトソーシング

before

after



- ・生産者組合がなく、わずかな情報しか入手できない。
- ・数多くの仲介業者が間に入り、生産者に正当な利益がわたらない。

- ・協同組合を組織し、教育や訓練の機会を提供。
- ・深い絆と発言力を有した強い組織を築き、共同事業にも取り組む。



- ・乏しい生産力に加え、未成熟な状態での収穫が横行。
- ・品質向上に伴う報酬が得られず、モチベーション低下。

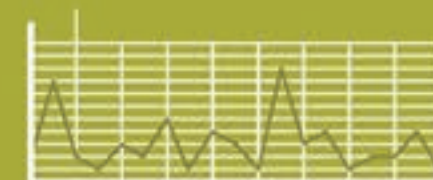
- ・生産力や収穫力向上のための訓練が高品質なオイルの生産につながり、継続的に続けていける事業へと成長。



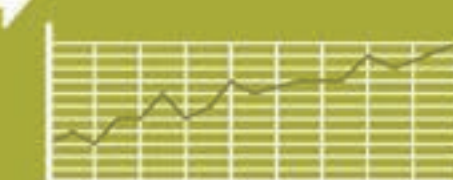
植物やオイルの品質のバラツキ。



コンスタントに品質の高いオイルが生産可能に。



市場価格が不安定。



長期取引のできる買い手（=ドテラ）につき、生産者が正当な額の安定した収入を得られるように。

dōTERRA  Healing Hands

ドテラ・ヒーリングハンズ基金のプロジェクトとしても、栽培者やその地域に必要な支援に取り組み、彼らの生活全体の向上をはかる。